

一般講演・口頭発表 O-13

## 神戸市須磨区の陸水生態系保全活動 ～水棲カメ類を中心に～

山本勝也（須磨・ふるさと生きものサポーター）

Conservation activities of Freshwater ecosystem at Suma, Kobe city: With a focus on freshwater turtles  
Katsuya YAMAMOTO (Suma hometown Living Things Supporter)

本会は地元、神戸市須磨区旧市街地の地域住民有志と一緒に、神戸市都市部における生物種保全を、最新の科学的知見のもと進めるべく活動、努力をしている。対象水域は大阪湾岸神戸市都市部である表六甲水系と、その水域に最も近い、西隣5kmにある神戸市都市部近郊の里地である、明石川水系中流部の二カ所である。またわが団体では、地元の社寺、管理公園、教育機関、事業所内などの管理地内での種、環境保全の事業を行っている。水棲カメ類の保全にあたっては以下の三点を重点的に行っている。

### 1. 過去記録の収集

神戸市を中心とした過去の生物情報について、聞き取り調査や、過去の文献をもとに「神戸市を中心とした陸水域生物の記録」(山本,2012)として冊子にまとめた。その他の新情報と共に今回、神戸の水棲カメ類の過去記録を抜粋した。1904年(110年前):神戸市市街地付近にはクサガメとニホンイシガメがみられた模様(Smith,1986:図版あり)。1941年以前(73年前以前):大賀二郎氏(昭和3年生)からの聞き取りによると、神戸市長田区市街地付近でみられたのは、ほとんどがクサガメで、その北側の丘陵地の獅子が池(現:須磨区)にはニホンイシガメが多くみられたという。同市須磨区須磨寺にはニホンイシガメが多くみられ、その理由としては、見栄えの良いニホンイシガメを寺院の池用に移入させたのではないかとのご意見をお伺いすることができた。1965年前後(約45年前):著者(昭和37年生)の記憶によると、須磨寺ではニホンイシガメ約3割、クサガメ約6割、ミシシippアカミガメ約1割であった。それ以降、ミシシippアカミガメが急速に増えたと記憶している。1993年6月(21年前):須磨寺の不動の池畔にてニホンイシガメを目撃した。筆者の息子とともに写した写真が残っている(図1)。それ以降、須磨旧市街地でニホンイシガメは確認していない。

### 2. 神戸市産のニホンイシガメの繁殖

前述したように、神戸のニホンイシガメは、都市部ではほとんど見られないまでに減少してしまった。当会では神戸市立北須磨小学校校庭網舎内に“カメさん池”を製作し、2012年度より神戸市産ニホンイシガメの繁殖を進めている。現在、表六甲水系2ペア、明石川水系4ペア12個体を飼育し、これまでの2シーズンで16個体のニホンイシガメの幼体を誕生させている。

### 3. 各種の管理とサンクチュアリの創設準備

神戸市の市街地水域のような人工的、二次的な環境では、種の保存や生態系の保全のためには人為的な管理が必要になってくると思われる。当会では水棲カメ類の種ごとに以下のような管理を実施している。

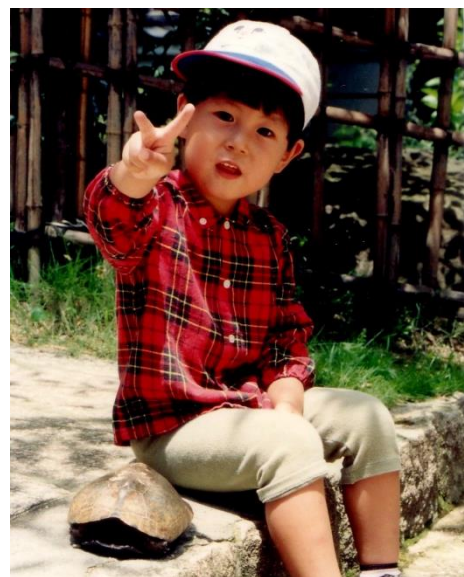


図1. 1993年6月須磨寺不動の池畔で捕獲したニホンイシガメ

ミシシippアカミミガメ: 調査時の捕獲品は原則当会で処分する。当会への持ち込み品などは須磨海浜水族園の亀楽園に引き取りをお願いする。クサガメ: 神戸市須磨区内の須磨寺観音池に集約している。大本山須磨寺小池弘三猥下のご厚意により、境内の人工池である観音池を神戸産クサガメの管理施設に改修していただいた。ここでクサガメを隔離させることにより、ニホンイシガメとの交雑の抑制、または、近年ペットとして中国より移入した個体群との分離を進めたい。また、2013年7月27日には、古くからの仏教行事でもある放生会を“須磨寺クサガメ放生会(ほうじょうえ)”として開催した(図2)。ニホンイシガメ: 須磨区市街地内でのニホンイシガメのサンクチュアリの設定を模索している。現在、須磨離宮公園内の新池に設置できないかを検討中である。

#### 4. 今後の課題

幼少期の子供さん達は小動物類、特にカメ類に大きな興味を持ち、触れ合い、飼育したいという欲求があるように思われる。本来であればそのような興味や欲求は、身近な在来種で満たされるべきではないかと考える。しかし昨今の都市化による環境の大きな変化などにより、かつては普通であった在来カメ類との接点が、近年では特に難しくなりつつあるように思う。その反面、ペットとして安価に販売され、手に入れやすく、また飼育もしやすいミシシippアカミミガメに、そのニーズが大きく置き換わったようにも思われる。今後、ミシシippアカミミガメの防除が進む中、子供たちのカメ類を飼いたいという欲求をどのように処理するのかを考えていきたい。当会では、飼育下で繁殖させた神戸市産のニホンイシガメの幼体を、本会の管理のもと、地域の教育機関や子供さん達個人に飼育していただくことを進めている。このことにより子供さん達のカメ類に対する興味を満たし、また、自分達の住む地域の自然環境を考えていただくきっかけにし、それと同時に、ニホンイシガメの種保全を進めることはできないかを模索中である。このことは子供さん達だけではなく、そのご家族様や周辺住民も巻き込む活動になるのではないかと思われる。須磨寺観音池のクサガメは、地域の有志住民らで終生飼養していく体制を整えていきたい。これらに必要な改定動物愛護法第二種動物取扱業の届出はすでに済ませている。さらに、防除されたミシシippアカミミガメの利用方法として、ファッション利用(ネイティブアメリカンのポーチ: ミシシippアカミミガメとニホンジカの同時利用)を提唱したい。神戸市内の生物防除やファッション関係の有識者で検討し、ぜひ、神戸より発信していきたいと思っている(図3)。

参考文献: 山本勝也. 2012. 神戸市を中心とした陸水生物の記録. 須磨ふるさと生きものサポーター・北須磨自然観察クラブ, 兵庫. 99p.  
Smith, Richard Gordon. 1986. The Japan Diaries of Richard Gordon Smith. Viking, USA. 224p.



図2. 2013年7月27日に行った須磨寺クサガメ放生会



図3. ミシシippアカミミガメの甲羅とニホンジカの皮を利用したネイティブアメリカンのポーチ